

2022 年 1 月 30 日

2021 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
課題研究

リンチ症候群の人々が認識する状況とその対処行動、  
医療者に対するニーズに関する質的研究

A Qualitative Study of the Situations and Coping Behaviors  
of People with Lynch Syndrome  
and Their Need for Healthcare Providers

20MN005

上田真由美

## 要旨

### 【目的】

リンチ症候群と診断されたがん発症者が認識する状況とその対処行動、医療者に対するニーズを明らかにすることである。

### 【方法】

本研究は、オンラインインタビューによる半構成的面接法を用いた質的記述的研究である。リンチ症候群と診断されているがん発症者 3 名を対象とし、リンチ症候群の患者家族会の代表者を通じてリクルートした。

オンラインインタビューでは、リンチ症候群と診断されてから現在までに認識している身体的、心理・社会的状況と対処してきたこと、医療者に対するニーズについてインタビューガイドを用い、60～80 分程度の半構成的面接を実施した。インタビュー内容は了承を得て録音し、全て逐語録に起こし、質的帰納的に分析、評価した。本研究は、聖路加国際大学研究倫理委員会の承認を受け実施した。(承認番号：21-A044)

### 【結果】

データ分析の結果、リンチ症候群と診断されたがん発症者が認識する状況とその対処行動として【がんの家系内集積を意識してきた生育過程】【リンチ症候群とがんの家系内集積とのリンク】【リンチ症候群である事実に対する受容と孤独】【家族歴に応じた個別的なサーベイランスの実践】【サーベイランスを遵守するための方略の実践】【健康維持のための予測的・予防的対処行動の実践】【体調とサーベイランスを優先した仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)】【周囲が持つイメージや偏見との折り合い】【リンチ症候群のコミュニティとの相互作用】【リンチ症候群である他者の対処行動に対する願望】【リンチ症候群とともに歩む自分らしさの確立】【子供が受ける影響を考慮した段階的な関わり】【主治医への信頼と意欲的な受診行動の相関】の 13 カテゴリーおよび 33 サブカテゴリ、医療者に対するケアニーズとして【専門的に取り扱う医師の不足】【遺伝性疾患への理解と専門資格のある看護師への期待】の 2 カテゴリー、および 4 サブカテゴリが抽出された。

対象者らは、遺伝性疾患としてのリンチ症候群への理解と包括的な診療を望むとともに、医師の専門的知識の充足や遺伝性疾患に対し専門資格のある看護師の介入に期待を寄せていた。さらに、血縁者を含む他者との関係性が、認識や対処行動に関連していた。

### 【結論】

リンチ症候群と診断された人々が置かれている状況において、他者との良好な関係性の構築とリンチ症候群に対する医療者の包括的な理解が、健康課題への関心とサーベイランスへの意欲的な取り組みにつながり、かつ、疾患管理に対し有効であることが示唆された。

がんゲノム医療の発展にとともに、臨床では遺伝情報に応じた個別化治療戦略が進んでいる反面、今後ますます医療者側にも高い専門知識が求められる。